

# 令和6年度島根県学力調査結果（概要）について

浜田市教育委員会

## 1 調査の概要

### (1) 目的

学習指導要領における各教科の目標や内容に照らした学習の状況及び学習や生活に関する意識や実態を客観的に把握し、児童生徒に必要な指導・支援を行うとともに、全国学力・学習状況調査等で明らかになった学習指導上の課題の改善状況を検証し、今後の学校における指導と教育施策の一層の改善・充実に資する。

### (2) 調査日 令和6年12月3日（火）

### (3) 実施対象学年及び実施教科等

小学校5・6年生：国語・算数

中学校1・2年生：国語・数学・英語

※ 全対象学年に、「生活・学習意識に関する調査」を実施

### (4) 用語説明

「平均正答率」 各学年・教科において、児童生徒個人が正答した問題の割合（％）を県または市町村単位で平均した値。

「全国」 本調査に参加している全国の自治体を表す。

## 2 浜田市・島根県・全国の平均正答率及び浜田市の島根県・全国との差

		国語	算数・数学	英語
小5	目標値	66.2	61.0	
	市平均正答率	65.6	58.0	
	県平均正答率	65.0	55.9	
	市－県	+0.6	+2.1	
	全国平均正答率	71.9	62.2	
	市－全国	-6.3	-4.2	
小6	目標値	64.8	66.5	
	市平均正答率	58.7	62.0	
	県平均正答率	62.9	63.7	
	市－県	-4.2	-1.7	
	全国平均正答率	69.9	67.3	
	市－全国	-11.2	-5.3	
中1	目標値	57.5	55.2	61.1
	市平均正答率	58.3	48.9	49.3
	県平均正答率	58.8	52.1	48.6
	市－県	-0.5	-3.2	+0.7
	全国平均正答率	59.9	56.2	56.8
	市－全国	-1.6	-7.3	-7.5
中2	目標値	55.6	51.7	59.5
	市平均正答率	51.5	43.5	40.8
	県平均正答率	56.6	48.7	44.1
	市－県	-5.1	-5.2	-3.3
	全国平均正答率	58.0	49.6	52.1
	市－全国	-6.5	-6.1	-11.3

〈参考：小学校6年生における令和5年度全国及び県学力調査の平均正答率の差〉

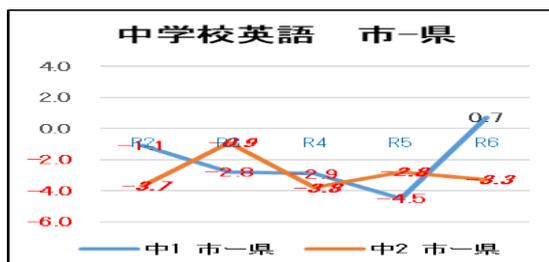
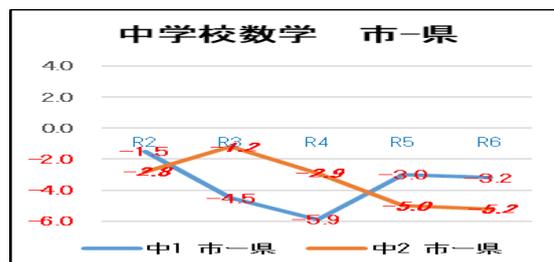
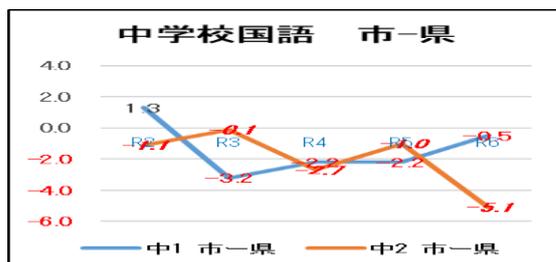
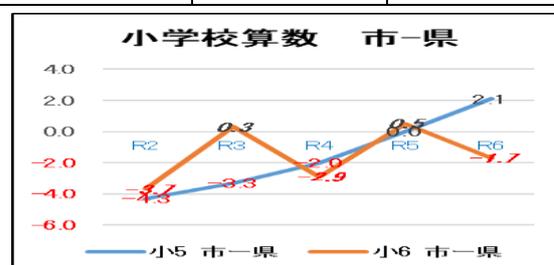
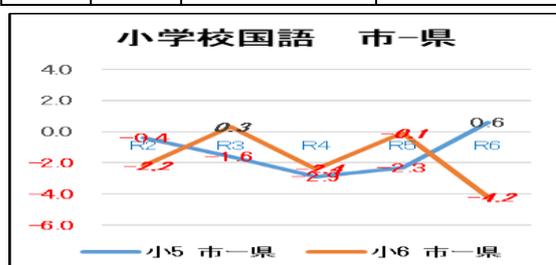
教科	項目	全国学力調査（4月）	県学力調査（12月）
国語	市平均正答率	63.0	58.7
	県平均正答率	67.0	62.9
	市-県	-4.0	-4.2
算数	市平均正答率	58.0	62.0
	県平均正答率	61.0	63.7
	市-県	-3.0	-1.7

比較が可能な小学校6年生の県平均正答率との差は、国語は-4.0P→-4.2P、算数は-3.0P→-1.7Pで、算数においては年度内における改善傾向は認められる。

### 3 島根県と浜田市の平均正答率差の経年比較状況

(1) 年度ごとの県平均正答率差 (○は前年度を上回り、△は下回った教科)

学年	教科	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
小5	国語	○ -0.4	△ -1.6	△ -2.9	○ -2.3	○ +0.6
	算数	△ -4.3	○ -3.3	○ -2.0	○ ±0.0	○ +2.9
小6	国語	△ -2.2	○ +0.3	△ -2.4	○ -0.1	△ -4.2
	算数	△ -3.7	○ +0.3	△ -2.9	○ +0.5	△ -1.7
中1	国語	○ +1.3	△ -3.2	○ -2.2	-2.2	○ -0.5
	数学	○ -1.5	△ -4.5	△ -5.9	○ -3.0	△ -3.2
	英語	○ -1.1	△ -2.8	△ -2.9	△ -4.5	○ +0.7
中2	国語	△ -1.1	○ -0.1	△ -2.7	○ -1.0	△ -5.1
	数学	△ -2.8	○ -1.2	△ -2.9	△ -5.0	△ -5.2
	英語	△ -3.7	○ -0.9	△ -3.8	○ -2.8	△ -3.3



令和2年度と比較すると年度における増減はあるものの、小学校では6年生国語以外は改善している。中学校では、英語について改善は認められるが、他は差が広がっており課題である。

(2) 調査該当学年の県平均正答率差の経年比較 (○は前学年を上回り、△は下回った教科)

① 現小学校6年

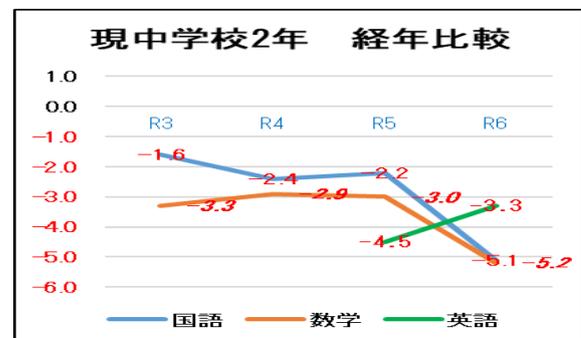
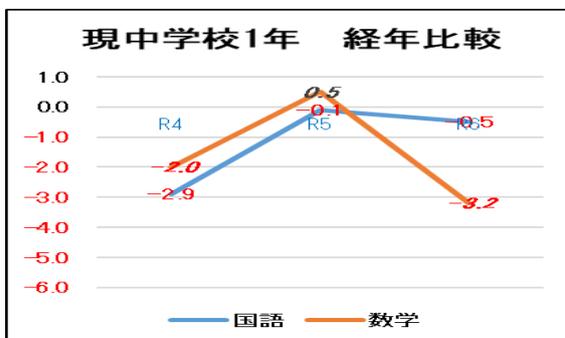
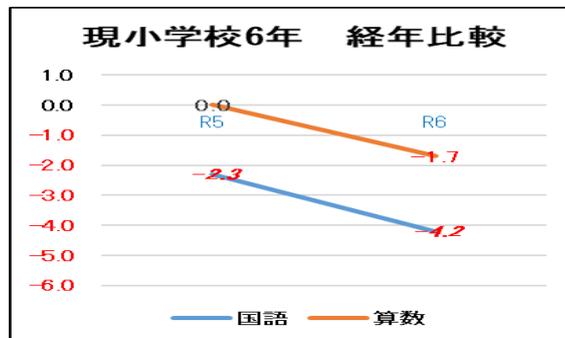
学年	教科	R 5 (小5)	R 6 (小6)
現小6	国語	-2.3	△ -4.2
	算数	±0.0	△ -1.7

② 現中学校1年

学年	教科	R 4 (小5)	R 5 (小6)	R 6 (中1)
現中1	国語	-2.9	○ -0.1	△ -0.5
	数学	-2.0	○ +0.5	△ -3.2
	英語			+0.7

③ 現中学校2年

学年	教科	R 2 (小5)	R 3 (小6)	R 4 (中1)	R 5 (中2)
現中2	国語	-1.6	△ -2.4	○ -2.2	△ -5.1
	数学	-3.3	○ -2.9	△ -3.0	△ -5.2
	英語			-4.5	○ -3.3



現中学校1年生の国語及び現中学校2年生の英語については伸びが認められるが、それ以外については伸びが認められず課題がある。

#### 4 各教科の状況

(1) 教科の全体的な状況について

- 小学校については、送付された調査結果の総括として「目標値と比較すると5年生において日ごろの指導の成果が表れています。6年生において、概ね良好といえそうです。」との分析記載はあった。

5年生については、県平均正答率との差が国語は+0.6P、算数は+2.1で県平均正答率を上回っており、総括における記載のとおりであると捉えている。小学校6年生については、「概ね良好といえそうです」とされてはいるが、県平均正答率との差が国語は-4.2P、算数は-1.7Pであり、特に国語に課題があると捉えている。

- 中学校については、送付された調査結果の総括として「1年生、2年生において、概ね良

好といえそうです。」との分析記載はあった。

1年生については、県平均正答率との差が国語は－0.5P、数学は－3.2P、英語は＋0.7Pであり、「概ね良好といえそう」とされているが、特に数学に課題があると捉えている。2年生については、県平均正答率との差が国語は－5.1P、数学は－5.2P、英語は－3.3Pであり、調査対象教科全てにおいて課題があると捉えている。

## (2) 各教科の領域別正答率

- ※ ○：市の正答率が目標値の+5ポイント以上  
 －：市の正答率が目標値の-5ポイント以上～+5ポイント未満  
 △：市の正答率が目標値の-5ポイント未満

} 実施業者基準による

### ① 国語（「差」の欄の括弧内の数値は、昨年度の目標値と市の正答率との差を表す）

学習指導要領 の領域	学年	平均正答率 (%)				
		島根県	浜田市	目標値	差	
言葉の特徴や使い方 に関する事項	小5	69.2	70.5	69.5	+1.0 (+0.9)	-
	小6	59.4	54.6	65.5	-10.9 (-7.9)	△
	中1	68.0	67.0	66.7	+0.3 (+0.6)	-
	中2	71.5	66.7	70.0	-3.3 (+3.1)	-
情報の扱い方 に関する事項	小5	56.1	57.4	40.0	+17.4 (-6.9)	○
	小6	57.5	54.6	55.0	-0.4 (-3.1)	-
	中1	32.8	31.2	35.0	-3.8 (-1.5)	-
	中2	20.8	13.9	27.5	-13.6 (-1.3)	△
我が国の言語文化 に関する事項	小5	57.5	58.5	55.0	+3.5 (-12.5)	○
	小6	35.1	33.5	50.0	-16.5 (-2.0)	△
	中1	76.0	76.2	75.0	+1.2 (-2.8)	-
	中2	39.7	38.2	40.0	-1.8 (+7.4)	-
話すこと・聞くこと	小5	73.3	73.3	66.7	+6.6 (-3.2)	○
	小6	86.4	84.6	70.0	+14.6 (+7.6)	○
	中1	57.4	56.0	56.7	-0.7 (+7.6)	-
	中2	63.8	60.6	61.7	-1.1 (+5.1)	-
書くこと	小5	53.4	55.4	63.3	-7.9 (-9.6)	△
	小6	56.3	51.1	61.7	-10.6 (-6.0)	△
	中1	50.2	48.9	47.1	+1.8 (-1.6)	-
	中2	47.5	42.0	45.7	-3.7 (-3.7)	-
読むこと	小5	62.9	61.1	65.0	-3.9 (-5.3)	-

	小 6	66.6	62.0	66.7	-4.7 (-4.2)	-
	中 1	52.8	54.3	53.3	+1.0 (+0.4)	-
	中 2	49.0	42.4	50.0	-7.6 (+1.3)	△

② 算数・数学（「差」の欄の括弧内の数値は、昨年度の目標値と市の正答率との差を表す）

学習指導要領 の領域	学年	平均正答率 (%)				
		島根県	浜田市	目標値	差	
数と計算（小学校） 数と式（中学校）	小 5	56.5	59.4	61.0	-1.6 (-3.2)	-
	小 6	66.9	64.0	71.2	-7.2 (-3.9)	△
	中 1	55.2	52.0	58.1	-6.1 (-7.4)	△
	中 2	45.3	40.7	47.7	-7.0 (-9.7)	△
図形	小 5	65.2	65.4	67.9	-2.5 (-9.2)	-
	小 6	63.9	62.9	67.2	-4.3 (+2.2)	-
	中 1	66.5	64.6	67.5	-2.9 (-5.2)	-
	中 2	62.2	54.1	64.2	-10.1 (-4.1)	△
変化と関係（小学校） 関数（中学校）	小 5	38.1	40.1	43.3	-3.2 (-12.1)	-
	小 6	46.9	51.6	47.5	+4.1 (-15.5)	-
	中 1	42.9	38.5	45.9	-7.4 (-7.0)	△
	中 2	46.6	41.7	50.0	-8.3 (-12.5)	△
データの活用	小 5	44.3	45.4	52.5	-7.1 (-9.0)	△
	小 6	66.8	61.7	63.3	-1.6	-

③ 中学校英語（「差」の欄の括弧内の数値は、昨年度の目標値と市の正答率との差を表す）

学習指導要領 の領域	学年	平均正答率 (%)				
		島根県	浜田市	目標値	差	
聞くこと	中 1	57.7	57.5	69.4	-11.9 (-6.8)	△
	中 2	47.7	46.0	60.0	-14.0 (-6.2)	△
読むこと	中 1	48.7	49.1	63.6	-14.5 (-6.6)	△
	中 2	47.8	44.6	62.9	-18.3 (-5.1)	△
書くこと	中 1	40.3	42.3	50.0	-7.7 (-10.9)	△
	中 2	34.8	29.8	53.9	-24.1 (-8.2)	△

(3) 各教科の解答形式別正答率（「県との差」欄の括弧内の数値は昨年度の数値を表す）

形 式	国 語					算数・数学				英 語	
	小 5	小 6	中 1	中 2	小 5	小 6	中 1	中 2	中 1	中 2	
目標値	69.6	68.8	53.6	60.8	62.9	63.9	63.8	55.4	69.8	64.5	

選択式	浜田市	71.4	63.9	53.8	56.1	61.8	61.7	58.2	46.0	56.6	47.7
	県との差	+0.2 (-3.2)	-4.0 (-0.6)	+0.2 (-3.8)	-5.0 (-1.9)	+2.2 (-0.1)	+0.4 (+0.1)	-2.6 (-2.2)	-6.3 (-4.7)	-0.1 (-4.3)	-2.6 (-2.3)
短答式	目標値	65.6	64.3	67.8	58.8	62.7	72.9	49.3	51.8	51.0	62.5
	浜田市	66.9	53.9	70.2	53.7	58.3	66.3	42.0	43.8	45.2	37.3
	県との差	+0.2 (-1.7)	-4.3 (-1.2)	+0.4 (-0.6)	-5.3 (-0.2)	+1.7 (-0.3)	-3.1 (+1.0)	-4.2 (-3.8)	-4.2 (-5.9)	+3.1 (-5.6)	-5.3 (-3.9)
記述式	目標値	60.0	58.6	49.2	40.8	35.0	30.0	30.0	27.5	40.8	42.9
	浜田市	52.3	54.4	48.7	39.5	28.2	27.2	22.9	25.3	28.2	22.4
	県との差	+1.9 (-1.2)	-4.6 (+2.2)	-2.8 (-1.9)	-4.7 (-0.5)	+3.3 (+1.1)	-4.5 (-0.6)	-4.3 (-4.3)	-7.2 (-2.4)	+1.0 (-5.6)	-4.0 (-3.9)

#### (4) 浜田市児童生徒の平均正答率の特徴

浜田市児童生徒の平均正答率の上位3設問及び下位3設問の状況は以下のとおりである。

##### ① 国語

【小学校5年生】※ ( ) 内の数値は、県平均正答率との差を表す

問題番号	正答率	解答形式	領域	問題の内容	出題のねらい
2(2)①	69.7% (+5.0)	短答	言葉の特徴や使い方に関する事項	漢字を書く	第4学年に配当されている漢字を正しく書いている。
3(2)	41.7% (+4.8)	選択	言葉の特徴や使い方に関する事項	言葉の学習	連用修飾語について理解している。
3(3)	91.9% (+4.1)	選択	言葉の特徴や使い方に関する事項	言葉の学習	敬語について理解し、正しく使っている。
5(1)	65.8% (-4.0)	選択	言葉の特徴や使い方に関する事項	説明文の内容を読み取る	叙述を基に文章の内容を捉えている。
4(1)	72.8% (-3.3)	選択	読むこと	物語の内容を読み取る	登場人物の心情について、描写を基に捉えている。
3(5)	45.7% (-2.5)	短答	言葉の特徴や使い方に関する事項	言葉の学習	文章の中で、文脈に沿った漢字を適切に使っている。

【小学校6年生】※ ( ) 内の数値は、県平均正答率との差を表す

問題番号	正答率	解答形式	領域	問題の内容	出題のねらい
2(1)①	99.4% (-0.1)	短答	言葉の特徴や使い方に関する事項	漢字を読む	第6学年に配当されている漢字を正しく読んでいる。
2(2)③	33.2% (-0.2)	短答	言葉の特徴や使い方に関する事項	漢字を書く	第6学年に配当されている漢字を正しく書いている。
2(1)③	98.0% (-0.3)	短答	言葉の特徴や使い方に関する事項	漢字を読む	第6学年に配当されている漢字を正しく読んでいる。
2(1)②	57.9% (-11.6)	短答	言葉の特徴や使い方に関する事項	漢字を読む	第6学年に配当されている漢字を正しく読んでいる。
2(2)①	22.1% (-9.4)	短答	言葉の特徴や使い方に関する事項	漢字を書く	第5学年に配当されている漢字を正しく書いている。
7	51.3% (-7.7)	記述	言葉の特徴や使い方に関する事項 書くこと	文章を書く	段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いている。

【中学校1年生】※（ ）内の数値は、県平均正答率との差を表す

問題番号	正答率	解答形式	領域	問題の内容	出題のねらい
4(1)	44.8% (+6.9)	選択	読むこと	説明的な文章の内容を読み取る	文章の内容について叙述を基に捉えている。
6(1)	42.3% (+3.6)	選択	書くこと	報告する文章を書く	読み手の立場に立って、文章を整えている。
2(2)③	36.4% (+3.0)	短答	言葉の特徴や使い方に関する事項	漢字を書く	小学校で学習した漢字を正しく書いている。
1(3)	35.3% (-4.7)	記述	話すこと 聞くこと	話し合いの内容を聞き取る	必要に応じて記録しながら話の内容を捉えている。
3(1)	50.7% (-4.0)	選択	言葉の特徴や使い方に関する事項	文法・語句に関する事項	単語について理解している。
3(2)	40.6% (-3.9)	選択	言葉の特徴や使い方に関する事項	文法・語句に関する事項	漢字の部首について理解している。

【中学校2年生】※（ ）内の数値は、県平均正答率との差を表す

問題番号	正答率	解答形式	領域	問題の内容	出題のねらい
3(3)	50.3% (+0.3)	選択	言葉の特徴や使い方に関する事項	文法・語句に関する事項	現代語訳を手掛かりに古典を読んでいる。
2(1)③	97.6% (-0.8)	短答	言葉の特徴や使い方に関する事項	漢字を読む	第2学年までに学習した漢字を正しく読んでいる。
1(2)	70.6% (-0.9)	選択	話すこと 聞くこと	話の内容を聞き取る	資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している。
3(1)	64.4% (-10.0)	選択	言葉の特徴や使い方に関する事項	文法・語句に関する事項	文の成分について理解している。
5(3)	38.8% (-9.5)	選択	読むこと	文学的な文章の内容を読み取る	文章を読んで考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを深めている。
2(2)③	51.9% (-9.1)	短答	言葉の特徴や使い方に関する事項	漢字を書く	小学校で学習した漢字を正しく書いている。

② 算数・数学

【小学校5年生】※（ ）内の数値は、県平均正答率との差を表す

問題番号	正答率	解答形式	領域	問題の内容	出題のねらい
7(2)	58.0% (+8.5)	選択	数と計算	小数のかけ算・わり算	図を使って、小数の除法の文章問題に合った式を選んでいる。
2(1)	81.5% (+7.3)	選択	数と計算	分数と小数	小数を分数の形に直すことができる。
2(2)	67.8% (+7.3)	選択	数と計算	分数と小数	分数と小数の大小比較をしている。
10(2)	64.4% (-7.2)	選択	図形	図形の角	図に示された五角形の内角の和の求め方

					を表す式を選んでい る。
10(1)	53.5% (-3.0)	短答	図形	図形の角	三角形の3つの角の 和を理解し、2つの角 の大きさから1つの 外角の大きさを求め ることができる。
15(2)	45.7% (-1.3)	選択	数と計算	小数のかけ算・わり算	()を用いた小数の式 が、何を表しているの かを判断している。

【小学校6年生】※ ( ) 内の数値は、県平均正答率との差を表す

問題番号	正答率	解答形式	領域	問題の内容	出題のねらい
12(2)	80.5% (+11.0)	短答	変化と関係	比と比の値	比の値について理解 している。
12(1)	34.7% (+10.0)	選択	変化と関係	比と比の値	等しい比について理 解している。
9(1)	68.5% (+3.0)	選択	図形	拡大図と縮図	図形の縮図について 理解している。
11(3)	56.4% (-8.7)	短答	図形	面積と体積	角柱の体積を求め ることができる。
7(1)	61.6% (-8.2)	短答	数と計算	文字と式	文字を使って、2つの 数量の関係を1つの 式に表している。
13(3)	28.9% (-6.3)	記述	データの活 用	データの活用	ヒストグラムの特徴 をもとに、平均値付近 の記録がいちばん多 いわけではないこと を説明している。

【中学校1年生】※ ( ) 内の数値は、県平均正答率との差を表す

問題番号	正答率	解答形式	領域	問題の内容	出題のねらい
9(1)	77.6% (+0.6)	選択	数と式	1次方程式	具体的な事象における数 量の関係をとらえ、その 関係を比例式で表すこ とができる。
8	66.1% (+0.5)	選択	数と式	1次方程式	比例式を解くことが できる。
15	48.1% (+0.4)	短答	図形	平面図形	三角形を回転させたとき の図形を方眼紙を利用し て作図することができる。
11(4)	44.5% (-8.1)	短答	関数	比例・反比例	反比例の式から、そのグ ラフをかくことができ る。
11(1)	33.6% (-6.8)	選択	関数	比例・反比例	比例のグラフから、xとy の関係を表した式を選 ぶことができる。
4(2)	51.3% (-6.3)	短答	数と式	正の数・負の数	累乗を含む正負の数の乗 法ができる。

【中学校2年生】※ ( ) 内の数値は、県平均正答率との差を表す

問題番号	正答率	解答形式	領域	問題の内容	出題のねらい
2(3)	25.9% (+1.2)	短答	数と式	式の計算	分数を含む多項式の計算 ができる。
6(1)	69.3% (-0.5)	選択	関数	1次関数	1次関数のグラフから、 1次関数の変化の割合を 求めることができる。
2(2)	56.8% (-1.3)	短答	数と式	式の計算	単項式の乗法と除法の混 じった式の計算ができ

					る。
8(1)	45.3% (-10.4)	選択	関数	1次関数	グラフが通る2点の座標から、1次関数の式を求めることができる。
16(2)	28.8% (-10.0)	記述	数と式	式の計算	囲んだ数の和が、5の倍数であることの説明を完成することができる。
4	33.9% (-9.7)	選択	数と式	連立方程式	与えられた文章問題に対して、適切な連立方程式を立式することができる。
6(2)	43.2% (-9.7)	選択	関数	1次関数	1次関数の式から、 $x$ の増加量に対する $y$ の増加量を求めることができる。

### ③ 英語

【中学校1年生】※ ( ) 内の数値は、県平均正答率との差を表す

問題番号	正答率	解答形式	領域	問題の内容	出題のねらい
9(1)	30.8% (+11.4)	記述	書くこと	場面に応じて書く英作文	対話の流れに合った英文を、相手に伝わるように書いている。(how many を使って数をたずねる)
5(1)③	74.8% (+6.2)	選択	読むこと	語形・語法の知識・理解	対話文を読み、文構造や文法事項を理解している。(疑問詞 which)
8(2)	60.2% (+5.2)	短答	書くこと	単語の並びかえによる英作文	文の語順を理解し、正確に書いている。(whose の疑問文)
2(1)	54.1% (-7.5)	選択	聞くこと	リスニング(対話文の応答)	対話を聞き、対話の概要を捉えて、適切に応答している。(自分も同じ競技をすると言われて)
7(1)	45.4% (-4.7)	選択	読むこと	長文の読み取り	スピーチを読み、代名詞 It の内容を理解している。
6(3)②	34.5% (-4.0)	選択	読むこと	さまざまな英文の読み取り	対話を読み、対話の流れと表から、必要な情報を把握して文脈に応じた内容を判断している。

【中学校2年生】※ ( ) 内の数値は、県平均正答率との差を表す

問題番号	正答率	解答形式	領域	問題の内容	出題のねらい
6(1)②	76.1% (+3.3)	選択	読むこと	語形・語法の知識・理解	対話文を読み、文構造や文法事項を理解している。(形容詞的用法の不定詞)
6(1)④	46.0% (+3.1)	選択	読むこと	語形・語法の知識・理解	対話文を読み、文構造や文法事項を理解している。(助動詞 must の否定文)
1(3)	67.0% (+2.8)	選択	聞くこと	リスニング(内容理解)	絵を適切に表している英文を聞き、その内容を理解している。(テレビ番組の予定)
6(2)①	48.1% (-10.9)	選択	読むこと	語彙の知識・理解	対話文の情報を読み取り、その内容を理解している。
1(1)	66.2%	選択	聞くこと	リスニング(内容理	絵を適切に表している英

	(-8.0)			解)	文を聞き、その内容を理解している。(公園の様子)
9(3)	48.1% (-8.0)	短答	書くこと	単語の並びかえによる英作文	文の語順を理解し、正確に書いている。(動名詞の文)

## (5) 教科の結果からみられる成果 (○) と課題 (▲)、考えられる指導ポイント (★)

### <国語>

#### 小学校5年生

- 出題分類別では、どの分類における平均正答率も県平均正答率を上回っているか同程度の値を得ている。
- 領域別にみると、「情報の扱い方に関する事項」の平均正答率が高く、業者設定の目標値との差が+17.4P、県平均正答率との差が+1.3P上回っている。
- ▲ 領域別における「書くこと」及び解答形式別における「記述」に、昨年度に引き続き課題がある。どちらの値も県の平均正答率を上回ってはいるものの、目標値や全国の値との開きが特に大きくなっている。

#### 小学校6年生

- 出題内容別にみると、「話し合いの内容を聞き取る」が県平均正答率と同程度か、上回っている。
- ▲ 領域別では、「書くこと」が県平均正答率を下回り差が大きい。
- ▲ 出題内容別では、「漢字を書くこと」に、誤答や無解答の率が高い。
- ▲ 出題内容別において、全ての学校において「物語の内容を読み取る」よりも「説明文の内容を読み取る」の方が、正答率が低い状況にある。意識調査においても、「説明文などを読んで、筆者の言いたいことを考える」の肯定的評価が年々低くなっていることとの関連も考えられる。

#### 中学校1年生

- 領域別では、「我が国の言語文化に関する事項」で県平均正答率を0.2P上回っている。「読むこと」では、県平均正答率を1.5P上回っている。
- 出題内容別では、「説明的な文章の内容を読み取る」「文学的な文章の内容を読み取る」とともに、県平均正答率と同じか上回っている。項目によっては、全国の正答率を上回るものもある。
- ▲ 領域別での「書くこと」では-1.3P、解答形式での「記述」では-2.8P、県平均正答率を下回っており課題がある。
- ▲ 出題内容別において、全ての学校において「文学的な文章の内容を読み取る」よりも「説明的な文章の内容を読み取る」の方が、正答率が低い状況にある。

#### 中学校2年生

- 出題内容別では、「話の内容を聞き取る」が全国平均正答率、業者設定の目標値を上回っている項目がある。
- ▲ 領域別では、「情報の取扱いに関する事項」「読むこと」「書くこと」に課題がある。
- ▲ 出題内容別では、「漢字を書く」に課題がある。
- ▲ 出題内容別において、ほとんどの学校において「文学的な文章の内容を読み取る」よりも「説明的な文章の内容を読み取る」の方が、正答率が低い状況にある。

#### ★ 国語についての今後の指導ポイントとして

課題に対して必要な情報を収集・整理して考え、根拠を明確にしながら説明をしていく力(読む力)を付ける取組を継続していくとともに、自己の考えの根拠を示しながら、一定の条件(分量・段落設定・段落内容の指定)の下で記述していく力(書く力)も育てていく。

これらのことに迫るために、読解力の育成を目指した指定校の取組への支援を充実するとともに、その取組の成果を各学校へ広げていく。また、図書館活用教育、調べる学習等の取組も継続していく。

また、普段の生活の中で既習の漢字を使うようにしたり、漢字習得のための手立てを考えたりすることで、正しい漢字や文脈に沿った漢字を書く力を育てていく。

## <算数・数学>

### 小学校5年生

- 県平均正答率を2.1 P上回っている。
- すべての領域で県平均を上回っている。
- ▲ 「図形」領域について、県平均を上回ってはいる(+0.2 P)が、全7問のうち3問が県平均以下、4問が全国平均より10 P以上下回るなど、4領域の中では最も課題がある。
- ▲ 数学的な表現を解釈する問題に課題が見られる。(例：図に示された考えに合う式を選ぶ、式の一部がどんな数量を表しているかを選ぶ。)

### 小学校6年生

- 昨年度課題のあった「変化と関係」領域(比と比の値)について、県平均及び全国平均を大きく上回っている。(県平均との差：+4.7 P、全国平均との差：+3.9 P)
- 「テープ図」を使って考える問題については、県平均正答率を上回っている。なお、この傾向は小学校5年生にも当てはまる。
- ▲ 「算数の勉強は好きだ」に対して肯定的に回答した割合は、小学校5年生であった昨年度から9.9 P低下した。(R5小5：61.7%→R6小6：51.8%)
- ▲ 多くの情報から必要な情報を選択して解答する問題に課題が見られた。(例：11(3), 13(3))

### 中学校1年生

- 比例式の問題(2問)はいずれも県平均正答率を上回っている。昨年度の小学校6年生時の調査では「比と比の値」において課題があったが、改善が見られている。
- 「数と式」及び「図形」領域において、目標値との差が昨年度に比べて改善された。
- ▲ すべての領域で県平均を下回り、課題が見られる。
- ▲ 多くの情報から必要な情報を選択して解答する問題に課題が見られた。(例：17(1))

### 中学校2年生

- 「数学の勉強は好きだ」に対して肯定的に回答した割合は、県平均を0.8 P上回っている。また、昨年度の中学1年生時の肯定率よりも改善されている。(R5中1：54.5%→R6中2：56.0%)
- 県平均正答率との差は広がったが、全国平均正答率との差は改善された。(R5：-7.7 P→R6：-6.1 P)
- ▲ すべての領域において、目標値を5 P以上下回っている。
- ▲ 問題場面の数量関係を捉えることに課題が見られる。(例：4, 6(2))

### ★ 算数・数学についての今後の指導ポイントとして

児童生徒自らが問題解決に向けての見通しをもち、図等の数学的な表現を活用しながら筋道を立てて説明し合う学習を重視することや、適用問題の確実な実施等の取組により、多くの問題解決体験をする中で、概念や性質に裏付けられた知識及び技能を習得することが必要である。また、他者の数学的な表現を読み取る活動等を通して、数学的な表現を解釈する力を育む必要がある。

これらのことに迫るため、指定校の取組への支援を充実するとともに、その取組の成果を各学校へ広げていく。

## <英語>

### 中学校1年生

- 県平均を0.7 P上回っている。

○ 「書くこと」の領域について、県平均を2.0P上回っている。また、全国平均と比較しても-3.2Pと、大きな差はない。

▲ 長文を読んで要点を捉えることに課題が見られる。(大問7)

▲ 一文で書く英作文は県平均を上回っているが、三文以上で書くような長めの英作文(大問10)においては課題が見られる。

#### 中学校2年生

○ 中学1年生のときと比較して県との差は改善している。(R5中1:-4.5P→R6中2:-3.3P)

○ 領域別でも、すべての領域において昨年度における県との差から改善が見られる。

▲ 県との差は改善された一方で全国との差は広がった(R5中1:-7.7P→R6中2:-11.3P)。また、目標値との比較では、いずれの領域でも10P以上差が開いており、課題がある。

▲ 「長文の読み取り」や「英作文」において、特に県平均や全国平均との差が大きい。

#### ★ 英語の今後の指導ポイントとして

「英語を使って何ができるようになるか」を明確にした単元ゴールを設定するとともに、目的、場面、状況を設定し、生徒が英語を使って気持ちや考えを伝え合うなど、やりとりのある言語活動を充実させていくことが必要である。

教科書等を読む際には、1文ずつ理解するのではなく、初見のまとまった英文から必要な情報を取り出すために、目的を持って読むなどの活動を繰り返していくことが必要である。

自分自身のことについて、また聞いたり読んだりしたことについての感想や意見のやりとりをし、その内容について、まとまった英語を書くといった領域統合の活動をしていくことが必要である。

授業の中で、上記のような言語活動の回数をできるだけ多く設定しながら、少しずつ表現を洗練していけるようにする。

## 5 生活・学習に関する意識調査の状況

### (1) 浜田市総合振興計画及び教育振興計画の目標項目について

浜田市総合振興計画では評価対象学年を小学校5年生、中学校2年生としていることから、この報告では対象学年を小学校5年生、中学校2年生とした。また、浜田市教育振興計画の目標値は全国学力・学習状況調査により達成度を評価することにしてはいるが、ここでは参考までに県学力調査結果による数値をあげている。

※数値の下線は改善が認められたもの、( )内の数値は、県肯定率との差を表している

質 問 項 目	小学校5年		中学校2年	
	令和5	令和6	令和5	令和6
平日に1日あたり2時間以上テレビゲームをしている	52.4 (+6.8)	<u>36.4</u> (-6.9)	40.6 (+0.1)	49.9 (+8.0)
学校に行く日は、学校の授業時間以外に1時間以上勉強をする	51.5 (-0.7)	<u>54.9</u> (+5.3)	46.6 (+1.5)	30.1 (-9.5)
自分で勉強の計画を立てて勉強をしている	65.1 (-1.4)	<u>67.8</u> (+1.0)	63.3 (-5.0)	60.0 (-6.3)
将来の夢や目標をもっている	81.2 (+1.0)	79.9 (-2.3)	66.4 (+0.8)	64.0 (+0.5)
自分にはよいところがあると思う	66.7 (-5.5)	<u>68.6</u> (-5.6)	68.9 (-3.6)	<u>70.1</u> (-3.5)
地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある	40.8 (-4.2)	<u>48.5</u> (+1.9)	34.8 (-4.6)	<u>35.2</u> (-0.7)
総合的な学習の時間では集めた情報を課題に沿って整理して考え、発表する学習に取り組んで	57.6 (-5.0)	<u>66.6</u> (+4.5)	65.5 (-4.5)	59.2 (-9.7)

いる				
----	--	--	--	--

① 小学校5年生

前年度の調査との肯定率比較では、7項目の内6項目において改善が認められる。特に「平日に1日あたり2時間以上テレビゲームをしている」と「学校に行く日は、学校の授業時間以外に1時間以上勉強をする」については、初めて県肯定率よりよい結果となった。

県肯定率との差では、「総合的な学習の時間では集めた情報を課題に沿って整理して考え、発表する学習に取り組んでいる」が-5.0→+4.5Pと最も増加している。また、「自分で勉強の計画を立てて勉強している」が-1.4P→+1.0Pとなっており、このことが「2時間以上テレビゲームをしている」や「学校の授業時間以外に1時間以上勉強をしている」の改善につながったと考えている。

しかしながら、「将来の夢や目標をもっている」については、前年度より肯定率が下がり、県肯定率との差も広がっている。

② 中学校2年生

前年度の調査との肯定率比較では、改善が認められたのは7項目中、「自分にはよいところがある」と「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」の2項目であった。特に「学校に行く日は、学校の授業時間以外に1時間以上勉強をする」は46.6P→30.1Pと下降しており、課題がある。

県肯定率との差においても上記項目が+1.5P→-9.5Pと最も差が開いている。小学校5年生で課題のあった「将来の夢や目標をもっている」については、県肯定率を上回っている。

(2) 授業改善に関わって重視している項目について

授業改善の状況を把握するために、小学校は6年生、中学校は2年生について、県学力調査及び全国学力・学習状況調査（中学校は3年生が実施しているため参考値として）の数値をあげ、同一集団での経年比較をしている。

※数値の下線は前年度より改善が認められたもの、  
( )内の数値は、県肯定率との差を表している

質問項目	小学校6年生			中学校2年生		
	前年度の 県学調	6年生 全国学調	6年生 県学調	前年度の 県学調	全国学調 (3年生)	2年生 県学調
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしている	65.7 (-3.6)	79.5 (-5.4)	<u>66.3</u> (-8.1)	67.6 (-5.4)	87.2 (+0.3)	<u>70.4</u> (-7.3)
自分に合った教え方、教材、学習時間になっている	73.1 (-1.0)	81.4 (-2.7)	<u>78.8</u> (-1.6)	64.5 (-5.4)	83.6 (+0.3)	64.5 (-6.2)
学校図書館を使った授業は、ほかの授業を行うときにも役立っている	64.0 (+1.2)		62.6 (-0.8)	50.0 (-2.3)		46.7 (-0.1)
国語の授業は、分かっている	83.9 (-4.8)	77.9 (-8.4)	<u>84.6</u> (-5.8)	80.0 (-5.0)	82.3 (-0.6)	76.3 (-5.0)
算数・数学の授業は、分かっている	77.6 (-3.8)	74.3 (-4.9)	<u>79.4</u> (-4.2)	73.4 (-1.0)	71.5 (-5.0)	69.3 (-5.6)
算数・数学の勉強は好きだ	61.7 (+4.9)	55.2 (+0.1)	51.8 (-5.4)	54.5 (-0.1)	44.5 (-11.3)	<u>56.0</u> (+0.8)

① 考えを深めたり、広げたりする学習について

前年度調査時と比較して、小学校6年生は65.7P→66.3P(+0.6P)、中学校2年生は67.6P→70.4P(+2.8P)と両学年ともに肯定率は伸びている。しかし、県肯定率との差は広がっている。

このことから、話し合う活動を通じて考えを深めたり広げたりする授業実践は広がってきている。しかし、県肯定率との差が広がっていることを踏まえると、更なる取組の充実が必

要である。

## ② 個に応じた学習について

小学校6年生については、前年度調査時と比較して73.1P→78.8P(+5.7P)と伸びており、中学校2年生については、前年度調査時と同率であった。小中学校ともに県肯定率との差は若干広がっている。

個に応じた指導として、課題解決に向かうために複数設定された取組を子ども自身が選択して学び、協働して課題を解決していく取組(複線型授業等)を推進する必要がある。

## ④ 学校図書館活用について

小学校6年生については、前年度調査時と比較して64.0P→62.6P(-1.4P)、中学校2年生は50.0P→46.7P(-3.3P)と肯定率が下がっている。

図書館を活用した授業については学校間で取組に差があるため、この授業を充実させていく必要がある。

## ④ 分かる授業について

国語については、前年度調査時と比較して小学校6年生は83.9P→84.6P(+0.7P)と若干伸びているが、県肯定率との差は1P開いている。中学校2年生は80.0P→76.3P(-3.7P)と肯定率は下がっているが、県肯定率との差は-5.0→-5.0Pで同率であった。

算数・数学については、前年度調査時と比較して、小学校6年生は肯定率が77.6P→79.4P(+1.8P)と伸びているが、県肯定率との差は0.4P開いている。中学校2年生は73.4P→69.3P(-4.1P)と肯定率が下がり、県肯定率との差も-1.0P→-5.6Pと4.6P広がっている。

要約学習を推進することを通して内容を端的に読み取ることや表現する力を伸ばしていくとともに、算数・数学アドバイザーの環太平洋大学の前田教授が提唱している「たくさんやる」授業を導入、展開、適用問題に位置付けながら分かる授業を推進していく。

## ⑤ 算数・数学が好きについて

前年度調査時と比較して、小学校6年生は肯定率61.7P→51.8P(-9.9P)と下降し、県肯定率との差も+4.9P→-5.4P(-10.3P)と大きく後退した。中学校2年生は肯定率が54.5P→56.0P(+1.5P)、県肯定率との差は-0.1P→+0.8P(+0.9P)と県肯定率を上回るとともに若干の伸びも認められる。

分かる授業と同様な取組を推進していくことで、分かる喜びを児童生徒に味わわせていくとともに、考える楽しさや図や表等に表しながら自己の考えを説明していく楽しさ、協働して問題解決をしていく楽しさを味わうことのできる授業を広げていく。

## 6 今後の対応

学力調査結果から明らかになっている浜田市児童生徒の課題は「限られた時間で、多くの情報の中から課題解決に必要な情報を収集して考え、根拠を明確にして筋道を立てて表現(文章、式、図、音声言語など)する力」である。この課題解決に向かって、主として以下の取組を行っている。

○ 知識・技能の定着を問う設問については、調査対象教科及び各学年ともに浜田市正答率の上位であり、これまでの各学校の知識・技能習得に対する取組成果は表れている。

したがって、知識・技能の定着に関する各学校の取組を継続・充実させていく。その際、個々の能力に応じた取組が可能となるように、AIドリルを積極的に活用しながら知識・技能の定着とともに、習得した知識・技能を活用して問題を解決していく力も育てていく。

○ 授業改善の柱を「付けたい力を明確にした上で、授業のゴールを子どもの姿で具体的に想定した授業」とし、次の取組を行う。

○ 教師の授業力向上に向かい、全ての小中学校への学校訪問指導を複数回実施する。その際、以下の点を重視しながら授業改善プランとして示す「子どもの声でつくる授業」に基づき、授

業構想段階から関わることで校内研究や授業者への支援となる学校訪問としていく。

- ・ 付きたい力を踏まえた授業構想（タブレット端末の活用、児童生徒自身による学び方の自己選択（複線型授業や習熟度別学習）、要約学習や知識構成型ジグソー法等の手法の導入）
  - ・ 目指すゴールの姿に向かった授業展開（提示する問いの吟味、深い学びに向かった教師の話合いのコーディネート、価値ある発言をすかさず「ほめる」）
  - ・ 子どもの姿を基にした授業改善につながる研究協議（ゴールにおける子どもの姿をより具体的に事前協議、参加者全員が授業改善への具体的なイメージをもつことができるような振り返りの実施）
- 国語を要とした読解力の育成及び算数・数学の授業改善について、指定校の取組を核としながら推進し、成果を各学校へ広げていく。読解力の育成については「要約学習」の取組を各学校が週時程に位置付けて確実に実施するようにしていく。算数・数学については、算数アドバイザーの環太平洋大学 前田教授の指導を生かした実践が各学校へ広がるようにする。
- そして、限られた時間の中で多くの情報の中から課題を解決するために必要な情報を収集して考え、根拠を明確にししながら筋道を立てて表現（文章、式、図、言葉による説明など）する力を育てていく。
- 「ICTを活用した授業改善指定校」の取組を継続し、授業における一人一台端末の効果的な活用の在り方を各学校に広げる。特に、複線型授業やA Iドリルの活用を含む一斉指導時における習熟度別学習への取組を推進していく。
- これらのことにより、児童生徒一人一人の学習状況に応じた個別最適な学びの充実や児童生徒同士が考えを共有し話合いを深めていく協働的な授業の実現を目指していく。
- 浜田市教育委員会が指定をする指定校（「協調学習」「図書館活用教育」「読解力育成」「算数・数学授業改善」「ICT 機器を活用した授業改善」）の取組を日々の実践に生かすことができるように、教員に対し指定校の公開授業のいずれかに年1回は参加をすることを求める。
- 浜田市小中連携教育における各中学校区の取組を継続していくことで、浜田市総合振興計画及び教育振興計画の目標項目についての更なる向上を目指す。平均正答率に注目していくことも大切であるが、子どもたちの内面を育てていくことも大切にする。特に「夢や目標をもつ」ことや「自分にはよいところがあると思う」児童生徒を地域や保護者とともに育てていく。
- 家庭学習の時間、メディア接触については、一部学年で取組成果が表れてはいるが、依然として課題がある。自分で計画を立てて家庭学習に取り組むことを充実していくことにより、児童生徒自らが家庭で過ごす時間についてコントロールする力を育成していくことを目指し、「家庭学習時間の確保」「メディア接触時間の適正化」、「読書時間の確保」等につなげていく。小中連携教育やPTA活動との連携を深めるなどの取組を継続して、保護者への啓発も強化していく。
- 授業の質を向上させ、学力を育成していくためには、学校、学級が「安心、安全で信頼できる場」であることが欠かせない。「学級づくり」の取組を各学校が組織的に取り組んでいけるように支援をしていくことに努める。